

時評ニ対ス

吉永みち子さん

「国民の財布のヒモが依然として固い」という普通の表現が、経企庁の月例経済報告にあらわれたと大騒ぎだ。官界においてはやはり画期的なことなんでしょうかね。あの程度でほめられるなんてうらやましいったらありゃしない。ま、これまでがひどすぎたんでしょ。

言葉がはつきりする、わかりやすくなるということは、いいことである。玉虫

色の言葉は玉虫色の頭に宿るとしたら、認めることを認め、はっきりさせることをはっきりさせる言葉から、玉虫色頭が明快な色に変わるかもしれない。行革の成否は役人の頭の色合いにも

かかっているわけで、民間からの關懷は行革の観点からもいいことをしなされた。

そういうえば、堺屋良官も元はといえは遺産官僚だった。官僚経験があるから官僚言葉の不明りょうさやいやらしさが余計にわかるのかも…喫煙家が禁煙すると、吸わな

い人より激しい嫌煙家になるといえますものね。ところで、湿気と暑気で体調不全。家で高校野球とか国会答弁なんかを見ていたら、国会での質問とその答えもま

作った言葉は響かない

り、読み違えたりするとか。情けなくて涙も出ない。それにしても、質問者まで原稿読んでは何事だと私は言いたい。質問ぐらい自分の言葉でできるだろうに。質問者も手元を見、答弁者も手元を見、他の議員は中継入ってるから寝ちゃいかんと必死に上下のマフタの接近遭遇と戦っている。笑っちゃったのは、真っ赤な服の女性議員が、時

た、官僚の作文に勝らないとも劣る代物で、聞いててイラした。もっとも国会答弁の答弁のあらかたは役人が夜中に作り、それを読んだらけらしいから、文章よりその態度をしかるゆかない。それも時折、平気で一枚飛ばした

折声をひっくり返して財源はどうするのかとヒステリックに叫びながら、手元をチラチラ。語気荒く…というト書きでもついているんだろうか。かつて、知り合いの官僚がこんなことを言っていた。「民主党の辻元さんって若い女性議員が、本当に自分の言葉で質問してた。新鮮だったし何か感激したよ。本当に自分の言葉で発せられた真摯(し)な質問には、自分の言葉で答えるしかなくなる。予定原稿なんて通用しない。こうなったら、緊迫感も出るのに」

町の普通の人にはわからない言葉で社会現象を解説する社会学者とか、意味のわからないような言葉でやりとりする国会議員とか、金輪際信用し

ちゃいけないのである。

たし何か感激したよ。本当に自分の言葉で発せられた真摯(し)な質問には、自分の言葉で答えるしかなくなる。予定原稿なんて通用しない。こうなったら、緊迫感も出るのに」

たし何か感激したよ。本当に自分の言葉で発せられた真摯(し)な質問には、自分の言葉で答えるしかなくなる。予定原稿なんて通用しない。こうなったら、緊迫感も出るのに」

たし何か感激したよ。本当に自分の言葉で発せられた真摯(し)な質問には、自分の言葉で答えるしかなくなる。予定原稿なんて通用しない。こうなったら、緊迫感も出るのに」

たし何か感激したよ。本当に自分の言葉で発せられた真摯(し)な質問には、自分の言葉で答えるしかなくなる。予定原稿なんて通用しない。こうなったら、緊迫感も出るのに」

たし何か感激したよ。本当に自分の言葉で発せられた真摯(し)な質問には、自分の言葉で答えるしかなくなる。予定原稿なんて通用しない。こうなったら、緊迫感も出るのに」

